

## 藍住町中学生海外派遣事業 オーストラリアショートステイを振り返って

藍住中学校 教頭 大西 仁史

長い間コロナ禍により途切れてしまっていた本事業の再開にあたっては、コロナ禍以前よりも多くの困難があったことと推測しますが、このような機会を与えてくださり、中学生たちのチャレンジをしっかりと支えてくださった藍住町、藍住町議会並びに藍住町教育委員会の皆様に心より感謝いたします。本事業を振り返りながら、生徒たちの活動を報告いたします。



本事業のショートステイは8月18日(金)から8月27日(日)の10日間、うち初日・最終日の移動を除けば8日間の日程で行われました。初日はチャーターしたバスに乗り、シドニーのオペラハウスや旧市街ロックスなどを訪れました。そして、夕方にシドニーから車で1時間30分ほど北に走ったところにあるゴスフォードという町に移動しました。そして、6家族のホストファミリーの皆さんと面会しました。2日目からはホストファミリーのお宅に1家庭2人がホームステイしながら、次週の月曜から木曜までSt Philip's Christian College Gosfordに通い学習しました。

初日のホストファミリーとの面会では、ホストファミリーの皆さんが温かい雰囲気



迎えてくださったこともあってか、想像していたよりリラックスした様子でそれぞれの車に乗り込んでいきました。翌日はそれぞれがホストファミリーのご家族と休日をお過ごししました。近くの美しいビーチやオーストラリアの野生動物がいる動物園に連れて行ってもらった生徒、大きなショッピングモールで一緒にショッピングした生徒など、様々な体験をしたようでした。

3日目からはゴスフォードキャンパスで学習しました。学校では9年生(高1)の生徒たちがバディとして藍住の生徒たちに付いてくれ、一緒に過ごしてくれました。午前中は藍住の生徒だけで英語の授業を受けたり、木曜に予定されている文化交流会の準備をしたりして、午後はバディたちと9年生の授業に参加しまし



た。バディの生徒たちは本当に素晴らしく、朝は毎日校門まで来て、笑顔で藍住の生徒を迎えてくれ、ティータイム(11:00頃の少し長い休憩時間)やランチタイムでは同じ世代の友達としていろいろな話で交流を深めてくれました。彼らとのコミュニケーションが藍住の生徒の、英語を身につけたいとか、いろいろな文化を持つ人と交流したいとかいうモチベーションをさらに高めてくれたのではないかと感じました。今回本事業に参加した生徒たちは、はじめからとても積極的に研修に参加することができていましたが、このショートステイを通じてさらに積極的に行動し、自信を持ってコミュニケーションを楽しむことができるようになったのではないかと感じています。水曜日に参加したシニアスクールのAssembly(集会)での発表、そして木曜に行われた文化交流会の発表や自作の劇・阿波踊りでもそれぞれの良さを生かして活躍することができました。

1週間という短い期間でしたが、生徒たちは多くのことを学ぶことができたのだと感じています。このショートステイを安全に支えてくださった株式会社日本旅行の皆様、ゴスフォードキャンパスのCameron Johnston 校長、Max Monin 学部長、現地での



学習全体の企画・運営をしてくださった Daniel Bedravec 先生、そして、現地でお世話になったホストファミリー及びバディの生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。

この事業が今後ますます充実し、藍住の子どもの世界に羽ばたく扉となることをお祈り申し上げます。